東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１２年1月 13

イスラームにおける侮辱、中傷

親愛なるムスリムの皆様

イスラームはムスリム間の関係、そして他者に対する振る舞いにおいて、精神的世界に害を及ぼし、侮辱的な意味を持つ言葉や振る舞いを厳しく禁じ、それらを避けるよう命じています。信仰する者よ、或る者たちに外の者たちを嘲笑させてはならない。それら（嘲笑された方）がかれらよりも優れているかも知れない。女たちにも外の女たちを（嘲笑させては）ならない。その女たちがかの女たちよりも、優れているかも知れない。そして互いに中傷してはならない。また綽名で、罵り合ってはならない。信仰に入った後は、悪を暗示するような呼名はよくない。それでも止めない者は不義の徒である。」（部屋章第１１節）

誰かを侮辱することはその人を価値のない存在と見なすことです。しかし人は尊い存在なのです。アッラーが最も素晴らしい形で創造され、地上の王とされた人を侮辱することは正しいことではないのです。またアッラーは、侮辱された人がアッラーの位階において侮辱する人よりもより尊いことを明らかにされ、また侮辱する人についても預言者ムハンマドは「ムスリムの兄弟を軽視することは罪として十分である」といわれ、人々にこの悪しき行為を避けるよう勧めておられます。

何か、あるいは誰かをからかうことは、人を軽視すること、侮辱することとなり、他者の過ちや不足点を言葉や態度で示すことはその社会においてその人の立場を下げることになります。侮辱の意識は、人が自分を立派だと見なした時に始まります。そして相手をないがしろにし、見下すようになります。結果としてこの意識は人に中傷をさせ、シャイターンに神に対して反抗させ、神を認めず人を馬鹿にするという形で現れる、うぬぼれや思い上がりといった病を生じさせます。

どのような形であれ、他者をからかい、彼の気に入らないあだ名で呼ぶことは道徳的な観点から非常に醜い行為です。人は侮蔑、侮辱といった行為以外は忘れることができます。しかしこのような行為、振る舞いは決して忘れることはありません。だからイスラームは人のこの悪い性質を厳しく否定しているのです。イスラームは侮蔑、人前での非難、言葉や文章での侮辱、侮蔑をよしとしません。この種の行為は人の精神的生を攻撃することを意味し、これは道徳心の欠如やしつけのなさから生じるものです。このような人々は道徳や人間的特性を伴っていないと見なされます。イスラームでは、人間に対してのみではなく動物に対してすら、下品で醜い言葉をかけることが禁じられています。一人のムスリムを侮蔑すること、その人を蔑視して話すこと、振る舞うことは非常に醜い性質です。言葉もしくは行為によって、物理的にまたは精神的に人を圧迫し、傷つけ、蔑視し、侮辱し、からかい、表情によってあざけり、人を助けるといいつつ彼らの尊厳や名誉をもてあそぶことに慣れ、陰口をたたいている人は、真の意味であわれむべき存在であり、真の禍に出会うであろうことをクルアーンは伝えています。そしてこういった行為を禁じているのです。